



かぜ 会志の旋風 ～自律貢献～

令和7年8月28日（木）No 16 発行
文責：松本 卓也

今、一人一人ができること

思うこと、寄り添うこと
できることをやっていくこと
一生懸命取り組むこと

県内7つの市町に『大雨特別警報』が出される等、10日（日）深夜から11日（月）朝にかけて、熊本県では記録的な大雨に見舞われました。令和7年8月豪雨により、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申しあげますとともに、被害にあわれた皆様、ご家族の方々にお見舞いを申しあげます。平成28年熊本地震の際には、人的支援や物資等、私たちは多くのご支援をいただきました。温かな励ましや人と人とのつながりにどれほど勇気づけられたかわかりません。第101回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）で、2年連続8度目の総合優勝を飾った青山学院大学の原監督は、令和6年能登半島地震の際に「今、一人一人ができること」について問いかけられ、「まずは思うこと、寄り添うことが大切だと思う。それを受けて、国、個人として、できることをやっていければいいと思うんですね。個人レベルで言えば、寄付ができる余裕がある方は寄付を、ボランティアができる方はボランティアを。学生はこれから大学受験や、スポーツ活動も始まってますので、そこで一生懸命取り組むことができますね、勇気や元気をお伝えすることができるのかなと思います」と自身の考えを語りました。

28日（木）の前期後半開始式では、「今度は私たちが勇気や元気を伝えるときです。」と私の思いを伝えました。大きな災害を経験した私たちだからこそできる支援があります。「思うこと、寄り添うこと」、「できることをやっていくこと」、「一生懸命取り組むこと」私たち一人一人ができることを、子どもたちとともに考えていきたいと思っています。

夏休みはどのようにお過ごしだったのでしょうか。子どもたちが、「命を守る」という約束を守り、登校してくれたことが何より嬉しいことです。保護者の皆様には、お子様の体調管理や生活面、学習面での見守り等、大変お世話になりました。

夏休みも自律貢献！ ～学習に部活動等に一生懸命取り組む姿が見られました～

左から、学習会、駅伝練習、市立中体連、市長表敬訪問、くまもとマラソンフェスティバルのようすです。



【編集後記】One voice. たとえ一つの声でも・・・

▼多くの尊い命を奪った太平洋戦争が終結して80年が過ぎました。当たり前の日常や誰もが幸せに生きることが出来る世の中を創っていくことは、私たちの「使命」だと考えます。▼6日（水）に営まれた広島平和記念式典では、広島の小生二人がこども代表として、「平和への誓い」を読み上げました。



いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありませんか。昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。（中略）

世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

▼大切な人と一緒に笑い合う生活を創っていくのは、そこで暮らす私たち全員の努めです。一人一人の気持ちを大事にして、互いを認め、笑顔で生活ができるよう、共に努力していきたいと思います。「平和」を創る主体者として、子どもたちと共に行動していくことを誓います。

※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）